

会 議 概 要

会議の名称	第5回伊予市食育推進会議
開催年月日	平成26年2月14日(金)
開始・終了時刻	午後2時00分から午後4時00分
開催場所	伊予市保健センター
会長氏名	坂本勇人
副会長氏名	吉澤三千久
出席委員(者)氏名	坂本勇人、佐々木典彦、久保井 誠、高岡小夜子、小西千鶴子、松浦義憲、竹内貴俊、松本洋子、西影永治、玉井 彰、岩村正雄(代理出席 玉井広志)、西田香織、森 道子、森 史織、森 敏郎、早田 亮、鶴岡正直、山下佳宏、福岡保裕、米井 司(代理出席 井ノ口司)、海田秀司、米湊誠二、田中 浩、出来和人
欠席委員(者)氏名	吉澤三千久、亀田尚樹、吉永智一、谷本圭司、島川都季子、武田淳一、
傍聴者氏名	傍聴者なし
説明者の職氏名	山内主査、関木主任、戸田主任
事務局職員職氏名	亀岡健康増進課長、室主幹、山内主査、戸田主任
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長あいさつ 3 議題 <ul style="list-style-type: none"> ・伊予市の食育推進の状況について ・伊予市の食育関係事業について ・保育所での食育の取り組みの報告 ・地産地消推進について ・今後の食育推進について 4 各団体からの提言・お知らせ等 5 意見交換 6 閉会
配布資料	資料 1 伊予市食育関係事業実施一覧 資料 2 保育所での食育の取り組み 資料 3 地産地消推進について 資料 4 今後の食育推進について 資料 5 キッズキッチン参加者アンケート結果 資料 6 食育推進の年次計画 資料 7 各団体からの提言について

会 議 録

発言者	会議の概要
14:00～ 開会宣言 事務局	<p>ただ今から、第 5 回伊予市食育推進会議を開催させていただきます。皆様には、ご多忙の中、ご出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>なお、本会議は、伊予市審議会等の委員の公募並びに会議及び会議録の公開に関する規則にのっとり、市政の公正の確保と透明性の向上のため原則公開とし、会議内容についても議事録作成のため録音させていただくとともに、市ホームページに会議録を掲載させていただきますことをご了承願います。また、会議録作成後、録音は消去します。</p> <p>続きまして、欠席、代理出席の方々について報告します。本日、吉澤委員さん、亀田委員さん、吉永委員さん、谷本委員さん、島川委員さん、武田委員さんがご欠席ということで、ご連絡をいただいております。岩村委員さんに関しましては、代理ということで、玉井教頭先生にご出席いただいております。また、米井委員さんの代理につきましては、井口主任にご出席いただいております。</p> <p>なお、食育関係課から、子育て支援課の関木浩司主任が出席しております。以上、報告いたします。</p>
事務局	<p>それでは、開会にあたりまして、会長の坂本先生よりごあいさつを申し上げます。</p>
会長	<p>座ったままで失礼いたします。今日も本当に寒いですね。実は昨日うちの職員で実家の西条へ帰っておりまして、松山道が雪のため通行止めで、朝 4 時半に出発してやっとの思いで来たということでありまして。また、今晚も冷え込むみたいでなるべく早く皆さん帰るように通達しているところであります。今日は 2 月 14 日バレンタインですね。カレンダーにもバレンタインとっておりますので、辞書を引いてみましたところ、3 世紀ローマのバレンタインの殉教したその日が由来のようで、それが日本ではいつの間にか、女性から男性へ想いをチョコレートで伝える日となったと書いてありました。欧米では反対に男性のほうが女性に贈るそうであります。なんか、ホワイトデー 3 月 14 日が怖いのですけれども。</p> <p>さて、食育推進会議も第 5 回を迎えまして、本日も関係の方々から、また報告をいただけることと思っております。活発な意見をお願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。議事に入ります前に、資料の確認でございますが、先に会議資料を各委員さんの方に事前にお送りさせて</p>

	<p>いただきまして、本日御持参いただくようお願いいたしておりますが、お持ちでない委員さんがいらっしゃいましたらお知らせください。よろしいでしょうか。また、お席の前の名札を、前に向けていただいたらと思います。</p> <p>それでは、議事に移りたいと思います。この後の議事進行につきましては、食育推進会議条例第6条の規定に基づき、会長が議長を務めることとなっておりますので、坂本会長さんの方をお願いしたいと思います。坂本先生どうぞよろしくお願いいたします。</p>
議長	<p>それでは、議題に沿って議事を進行させていただきます。</p> <p>議題（1）伊予市の食育推進の状況について、よろしくお願いいたします。</p>
議題(1) 事務局	<p>失礼します。資料1をご覧ください。食育関係事業について、今年度の実施状況及び来年度の予定について、事業を担当している主管課の課長から委員名簿の順に報告します。では、子育て支援課からお願いします。</p>
委員	<p>子育て支援課です。よろしくお願いいたします。子育て支援課の方では保育所関係の食育となっております。この後、また詳しくプロジェクトなどで説明させていただきますので、わたくしの方からは簡単に説明させていただきます。まず、食育だよりの発行ですが、これは、毎月栄養士、調理師などが発行し、園児全員に配布しております。それから、給食試食会を、保護者に対しまして年1～3回実施しております。次、食育会議に関しましては、栄養士、保育士、調理師員間で毎月行っております。クッキング保育につきましては、全園で6～10回実施しております。ほとんどの園におきまして、野菜を栽培し・収穫を通して食育を行っております。また、保護者に対しまして、お昼の給食の写真・実物を玄関に展示しております。その他、伊予農業高等学校の学生との交流、食育講座、保育所の調理員を対象といたしまして年1回調理実習を実施しております。</p> <p>平成26年度におきましても、現在実施している取り組みを維持したいと考えております。以上で報告を終わります。</p>
事務局	<p>健康増進課、保健センターからは、キッズキッチンを25年度におきましては、さくら幼児園を皮切りに、7園を対象に保健センター2階の調理実習室で開催いたしました。平成24年25年度の2か年間で15か所の公立保育所・幼稚園で開催いたしました。昨年11月8日に関係課長でキッズキッチンの取り組みにつきまして協議を行いまして、平成26年度につきましても、引き続き実施する、現状維持で行うという方向性が決まりました。次のページですけど、マザー教室、離乳食講座、幼児食育講座、親子ふれあい健康教室、個別栄</p>

	<p>養相談、初級料理教室、保健栄養学級、健康診査、成人歯科健診、ハハハ教室、特定保健指導、生活習慣病予防教室、乳幼児健康診査、食育推進リーダー研修会、健診結果説明会と育児相談を25年度におきまして実施しております。そして、成人歯科健診ですけれども、来年度は充実ということで、現在の成人歯科健診の対象年齢、40歳以上70歳以下で推進しているのですけれども、26年度から対象年齢を20歳以上70歳以下に拡大して虫歯・歯周病予防対策に取り組むようにしております。そして、平成26年度新規事業ということで、妊婦歯科健診を妊婦の健康増進及び歯の健康づくりを進めるため、今現在の集団での健診から、個別での健診に取り組むようにしております。あと、地域・生産者・事業所等における取り組みですが、健康増進課と保険年金課が協力しながら、25年度におきましては第9回いよし健康&福祉まつりおよび食育フェスタを10月20日ウエルピア伊予で開催いたしました。26年度も引き続き継続して開催する予定としております。以上です。</p>
<p>委員</p>	<p>商工観光課でございますが、まず、1点目でございますが、学校給食等で使った伊予市の特産品を、チラシを配布し情報提供を行っていたということでございますが、今後、商工観光課としては、廃止の方向に向かわせていただきます。ただ、やめてしまうということではなく、食育推進会議のような連携する組織ができましたので、必要に応じて担当の課であるとか、団体からの情報提供をいただきながら、そこで交流や連携を図っていくということが重要ではないかということで、各団体で適宜対応していただくようにしたらどうだろうかと考えているところであります。そして、山梨県北杜市につきましては、人的交流はないわけなのですが、今年度「P@CKTTO（ぱくっと）！」で北杜市の紹介をさせていただいたのと、現在給食での食材の提供を行っております。また、北杜市の特産品センター、それから、株式会社アルプスという会社があるんですけれども、そういった会社が適宜、経済を現在も交流を行っておりますので、こちらから行政また「あじの郷」からの支援はもう必要ない状態でごんばっていただいております。今後もこの自主的な経済交流を見守っていこうと考えているところでございます。</p> <p>つづきまして、民公学連携事業でございますが、いつもお世話になっております伊予農業高校の生徒さん、また松山大学の学生さんでございますが、ちょうど今日配布いたしました「P@CKTTO（ぱくっと）！」の11ページに載せておりますが、今年度につきましては、松山大学の「松温会」という同窓会の会食に、連携事業で開発したメニューを取り入れていただきました。また、活動発表も</p>

	<p>させていただき、広く松山大学 OB の方々にも伊予市の取り組みを知っていただいたのではないかと考えております。また、松山大学の学園祭の方では、伊予農業高等学校の生徒さんにも来ていただいて、商品開発したものを販売していただいたところでございます。これにつきましては、今後、農業振興課の方の新規事業も新たな連携をとっていくようでございますので、行政との連携を持ちながら進めていきたいと考えているところでございます。</p> <p>そして、中山栗まつり、恒例の毎年 9 月 23 日に開催しているわけですが、この栗まつりを開催するにあたりまして、特選の中山栗の PR を行っていく、ブランドのイメージアップを図ると行くことで、今年度栗の端境期で、栗の確保が難しい時期ではありましたが、1 トンあまりの栗が確保できまして、かなりの方に交流をしていただき、栗の PR もできたのではないかと考えております。そして、今年度新たに色々な栗の料理で、栗づくし弁当というのを作りまして、それを販売させていただき、中山ならではの PR ができたのではないかと感じております。そして、よくイベントに行きますと、パックに入ったお弁当を売っているわけですが、やはり温かい出来上がりのご飯を食べていただくことも大切ではないかと、あったか栗ごはんということで、できたての栗ごはんを販売し、本当の栗のおいしさをその場で体験していただくというところを行っております。</p> <p>また、現在行っておりますのが、企業と生産者の連携をとということで、現在伊予灘サービスエリアに、双海町の共栄網というにぼし、ちりめんを加工するところがあるのですが、そののいりこ味噌を伊予灘サービスエリア限定で販売いたしておりますので、ぜひ、お立ち寄りいただき、お買い求めいただきたいと思っております。以上です。</p>
委員	<p>学校教育課でございます。小中学校におきましては、学校給食を通して、児童生徒に食に関する知識・力を習得させるという食育活動をしているところであります。それに伴いまして、給食の試食会や食育参観日で、保護者を含めて食育に関する啓発をしていくというところでございます。幼稚園におきましては、カレーやお好み焼き作り、地産地消につきましては、可能な限り市内産、県内産、国内産という順で食材を確保していく方向で、学校給食において地元食材への意識付けを実施しているところであります。学校給食につきましては平成 28 年 9 月の開始を目指しまして、現在給食センター化に向けて進めているところでございます。1 か所のセンターで給食を作るということで、今後食育、ソフト面に対しても、平成 26 年 4 月からは並行して検討していきたいと考えておりますので、皆様方</p>

	<p>のご協力をよろしく申し上げます。以上です。</p>
委員	<p>長寿介護課です。まず、栄養に関しましては、目玉焼きクラブ（男性料理教室）がございます。おおむね 65 歳以上の料理初心の男性を対象に、料理の基本を学び、栄養バランス、脂肪や塩分の摂り過ぎに気を配った食事を作り、健康維持につなげるということで、事業の方は、社会福祉協議会に委託しておりますけれども、今年は参加者 15 人、月 1 回の開催、場所はさざなみ館で実施しております。この事業につきましては、平成 26 年度におきましても現状維持という形で実施をする予定であります。次に、健康に関するものとして、介護予防教室、元氣いきいき教室とも呼んでおりますけれども、高齢者を対象に、食生活についての正しい知識や口の健康について学び、食べることの意欲や楽しみをもち、介護予防に繋げようとしております。こちらの主催は、長寿介護課の中にごございます、地域包括支援センターで、市内の在宅介護支援センターの協力を得ながら、場所をセンターで実施をしております。今年度は 5 回コースで毎回 30～60 人の参加をいただいております。学習内容は、栄養に関しての知識はもちろんですが、適度な運動をしよう、認知症予防に取り組もうなど、高齢者が元気で生き生きと暮らせるための多岐に渡る内容となっております。このような事業を通じまして、介護予防につなげていきたいと考えております。この事業におきましても、平成 26 年度、現状維持で継続してまいりたいと思っております。また、地域包括支援センターの保健師が、キッズキッチン の開催に協力参加しております。以上です。</p>
委員	<p>社会教育課です。人事異動でこの会に初めて参加させていただいております。どうかよろしくお願いいいたします。</p> <p>中央公民館で実施してございました青年料理教室につきましては、自主運営でやってきましたけれども、受講される若い女性の方が非常に少なくなってきましたので、運営に支障をきたしている状況が近年あり、平成 26 年度は廃止をすると決定しております。こういった年齢層の方、社会教育課としても、様々な事業に取り組んでほしいわけですが、なかなかうまくいっていないのが現状であります。</p> <p>それから、各公民館で実施をしている事業ではありますが、それぞれの地域の特性にあった形で、子どもから高齢者まで、様々な年代対象に、教室や体験活動を通じ、豊かな食生活を目指した活動しております。教室では、地元の食生活改善推進員さんでありますとか、婦人会さん、更生保護女性会さんといった方々、また、食品関係を勉強している高校生にも講師をしていただき、子どもたちに食</p>

	<p>を教えてくださいましては、自治公民館の中で、住民同士が交流をするという中での料理教室も開催をしております。</p> <p>中央公民館の青年料理教室以外は、平成 26 年度についても、引き続き、様々な活動を推進していこうというところでございます。以上です。</p>
委員	<p>失礼します。農林水産課でございます。農林水産課では、魚食の普及を通して、伊予市の魚の消費拡大のために、様々な事業を行っているところでございます。具体的には、伊予市シーフード協議会、この協議会が、地元の食材、海産物を使った料理教室を行ったり、各種イベントにおきまして、海産物の販売や地元産の食材を使った料理の実演・販売を行っております。平成 25 年度につきましては、料理講習会におきまして、若いお母さんの参加が増えまして、開催の回数を増やすことができましたので、来年度につきましては、講習会を充実させる方向で取り組むこととしております。以上でございます。</p>
委員	<p>農業振興課です。農業振興課関係は、地産地消と食の交流の関係団体の事業推奨を行っております。今日、青年農業者協議会と生活研究協議会の会長さんがみられておりますので、直接話を聞かれるほうが早いかもしれませんが、代わってご説明を申し上げます。</p> <p>まず、青年農業者協議会につきましては、伊予市の花まつりやいよ彩まつり、年 3 回あります土曜夜市等で、市内で生産した農産物の即売を通じて食育の推進をさせていただいております。そして、県の事業ですけれども、えひめまつやま産業まつりにも参加させていただいて、そこでも農産物の販売を通じ、地元産物の情報発信、地産地消の推進を図っていただいております。えひめまつやま産業まつりには、唐川びわ葉茶生産研究会にも参加いただき、びわ葉茶の推進、消費拡大につながっております。</p> <p>また、青年農業者協議会につきましては、農業体験交流会ということで、青年農業者の各圃場（ほじょう）等において、農作業体験や農村体験を通じて、自然な出会いの機会を創設するとともに、独身女性への農村・農業の理解を深めるといった交流活動もさせていただいております。</p> <p>生活研究協議会については、各種イベント、先ほどの花まつり等</p>

	<p>への参加いただくとともに、双海シーサイド公園で行われます恋人の聖地でオレンジデー、また、上灘の公民館まつりと協賛で行っております、秋の採れ穫れまつり等に中心になって参加していただきまして、農作物の即売、手巻き寿司・漬物づくり体験教室やその他料理教室などの体験を通して地産地消の推進を図るとともに、身近な食材の活用方法の伝承等を行っていただいております。</p> <p>そして、伊予市双海地区グリーン・ツーリズム推進協議会でございますけれども、これは、推進協議会に加入しているピザ釜等の各団体の体験交流を通じまして、地元の実践者や体験者が農林漁業体験をして交流を図ることにより、地元の食文化や伝統料理に親しむことで郷土愛を育み、食材を収穫することへの喜びを学んでもらう活動をしていただいております。この伊予市双海地区グリーン・ツーリズム推進協議会につきましては、現在市の予算でその活動を行ってございましたけれども、来年度からは名称を伊予市グリーン・ツーリズム推進協議会と改めまして、伊予地区や中山地区からの今後の参加展開も含めて、推進協議会を補助団体といたしまして、市から補助を行って、独自の活動をするような取り組みにかえる方向に向かいます。そういう意味で、平成26年度の取り組みが充実となっております。以上です。</p>
事務局	<p>以上が市の食育関係事業の実施状況です。</p> <p>次に、庁内の食育推進連絡会の栄養健康班で取り組んだ、保育所での食育の取り組みについて、子育て支援課の関木浩司主任から報告します。</p>
食育推進連絡会委員	<p>伊予市子育て支援課で児童福祉を担当しております。私の方からは、今年度、食育推進連絡会の栄養健康班で取り組みました事業についてご報告いたします。</p> <p>私たち、栄養健康班では、今年度の取り組みとして班員の構成上、未就学児童及びその保護者にターゲットを絞り、1つ目、幼稚園・保育所における食育の推進、2つ目、食育などの教材の共有、3つ目子どもの健診時における食育の推進、4つ目図書館を活用した食育の推進、の4つ取り組みを掲げ、食育に関する普及啓発活動を実施しました。</p> <p>まず、1点目として、幼稚園・保育所の入所児童を対象にした、食育の推進活動でございます。これまで、幼稚園・保育所では、不定期に昔話や童話、童謡などさまざまな絵本の読み聞かせやパネルシアターを行なっておりました。これらの土台を活用し、伊予市の食育デーであります毎月14日に、食育に特化した読み聞かせやパネルシアターを実施し、入所児童らに分かりやすい形で、「食育」に</p>

ついて学びの場を提供するものであります。パネルシアターについて、簡単に説明しますと、白い大きなパネルに、登場人物やモノを貼ったり、動かしたり、剥がしたりして、ストーリーを展開させていき、楽しく飽きさせないように見てもらうものであります。また、毎月14日の食育デーであります。行事の都合上、前後しての開催をいたしております。

これは、ぐんちゅう保育所で12月17日に行なった紙芝居の写真でございます。これは、ぐんちゅう保育所で7月3日に行なった、エプロンシアターの写真です。この日は、伊予農業高校生に来ていただいて、元気になる食べ物、バイキンをやっつける食べ物、体が大きくなる食べ物など、児童らが前に出て参加する形式のエプロンシアターを行ないました。

これは、保育士によるエプロンシアターです。手には、バイキンがいっぱいくっついているから、食事の前は、手を洗うことを分かりやすく教えていました。

これは、保育士による絵本の読み聞かせです。この絵本は、登場人物や食べ物が動くようになっており、これも分かりやすく児童らに食べ物の関心を引き出すためのものです。

2点目は、今説明させていただきました、絵本やパネルシアターの共有化であります。絵本やパネルシアターは、これまで各保育所や各幼稚園が個別に購入し活用してまいりましたが、教材の購入についても予算が限られているため、同じ教材を使うマンネリ化など、学びの提供にも制限がありました。これらの教材を、予算を使わず打開する手段として、幼稚園・保育所・図書館など、市内公共施設で保有する教材のリスト化を図り、貸し借りを行なう仕組みづくりを行なうものであります。これにより、無駄な公費を使うことなく、幅広い学びの提供ができると考えており、今現在、リスト化に向け、各施設に調査を実施しているところであります。

これが、教材の共有リストであり、このリストが完成をすれば、各施設に配布して、共有をしていくものであります。

3点目は、こどもの定期検診時の食育の推進であります。現在、保健センターでは、乳幼児健診や7か月健診、1歳6か月健診、3歳児健診などの健康診断を行なっておりますが、その待ち時間を活用し、健康増進課に在籍する保育士が、健診にきた子どもとその保護者に対して食育に関する本の読み聞かせをするものであります。こどもの健康は、毎日の食がもっとも重要であることと、待ち時間という無駄な時間の有効活用が目的で実施しました。

これが、双海で1月15日に行なわれた乳幼児健診の際の読み聞

	<p>かせの写真であります。</p> <p>4点目は、図書館を活用した食育の推進であります。図書館には、さまざまな図書あり、食育に関する図書が多数あることはいうまでもありません。そこで、図書館と連携し、図書館が毎月実施しているおすすめ図書の紹介に伊予市食育推進計画の推進テーマである「よく噛んで食べよう」「食の知識を身につけよう」について、これらに関連する図書の紹介を行ないました。また、6月の食育月間には、歯の健康をテーマに歯や口の健康について、より多くの方に関心を持っていただくことを目的に、歯科医療の場を経験したことのある司書に本を選んでいただき、紹介・展示しました。</p> <p>これが、図書館で6月に特別に展示・紹介をした時の写真です。0歳～10歳程度を対象とした児童書、また、知識を補うための専門書、また、虫歯や歯周病治療といった口腔衛生や美容にスポットを当てた一般書を展示・紹介をしていただきました。</p> <p>この取り組みの成果でございますが、絵本・紙芝居・パネルシアターなど、単に話を聞くだけの学習ではなく、動きがあり、話に参加する体験型の学習であるため、子どもたちの記憶に残りやすい学びの提供となったのではないかと考えております。</p> <p>もう一点目に、「食事前の手洗い」、「体に良い食事」、「いただきます・ごちそうさまの意味」など、少しずつだが子どもたちに食に対する関心が高まっているのではないかと考えられます。</p> <p>今後の課題といたしまして、この4つの取り組みの継続、また、教材リストの更新作業、エプロンシアター、紙芝居などの読み手・話し手のスキルアップ、また、学びに対する理解度の成果達成指標、子どもの保護者への食育の推進などが今後の課題としてあげられます。</p> <p>まとめといたしまして、近年、子どもの食をめぐるのは、発育・発達の重要な時期にありながら、朝食の欠食など、食習慣の乱れや思春期のやせにみられるような心と体の健康問題が生じております。これらの問題を解決するためには、乳幼児期からの適切な食事のとり方や望ましい食習慣の定着、食を通じた豊かな人間性の育成など、心と体の健全育成を図ることが重要であります。これらの取り組みによって、伊予市の子どもたち一人一人が「食べる力」を養い、生涯にわたって、健康で質の高い生活を送ることができる、一助になればと考えております。</p> <p>以上、簡単では、ございますが、栄養健康班の平成25年度の報告とさせていただきます。</p>
事務局	次に、地産地消の推進について事務局の戸田栄養士から報告しま

	す。
事務局	<p>10月に実施いたしました、食育推進連絡会地産地消班の来年度の計画について説明いたします。</p> <p>大きく二つあります。一つは、今年度に続きまして学校給食の地元産使用率の向上です。「おひさま市」や「住民自治されだに」との連携強化により、確実に地場産品の使用率は向上してきており、供給体制の強化や価格設定の調整、配送問題の解消等による供給量の更なる増加を目指します。また、新学校給食センターの運用開始に向け、伊予市の農水産物の出荷実績基礎調査に基づく新たな供給元を確保し、供給量の増加についても継続して取り組んでまいります。</p> <p>出荷実績基礎調査とは、もう一つの大きな来年度の計画ですが、現在、産直扱いによる販売等が増えてきていることから、本市では伊予市の農産物の出荷実績を正確には把握していないのが現状であります。そこで、まず「いつ」「どこで」「どのくらい」「どんなものが」採れているのか、本市で実際に採れている産品を把握し、その後、出荷量の多いものを選別し、学校給食や市で実施している食育教室などで使っていく。また、本市が特産品として伊予市の食材をPRしていくためにも、出荷実績基礎調査を実施したいと計画しております。2枚目の調査票案を開けてください。大変細かい表ですが、左側に区分というところがありまして、出荷対象、野菜・花き・花木・米穀・落葉果樹・柑橘について調査をいたします。調査対象は、JAえひめ中央、松山中央卸売市場、松山中央青果商業共同組合、丸温松山中央青果、愛媛中央花き農業協同組合、伊予連合農協青果、町屋、いよっくら、ふたみシーサイドを予定しております。これらの農産物については、健康増進課と農業振興課が担当いたします。魚介類については、調査対象は漁協で、担当課は農林水産課となっております。この調査を来年度実施いたしまして、分析をしていきたいと思っております。</p> <p>以上で、食育推進連絡会地産地消班の来年度の計画についての報告、並びに伊予市の食育推進の状況についての説明を終わります。</p>
議長	<p>よろしいでしょうか。では、議題（2）今後の食育推進について、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>今後の食育推進について、伊予市の食育推進計画で推進しているキッズキッチンについて報告いたします。まず、今までの経過について平成24年度・25年度の2年間で15か所の認定園を含む公立幼稚園保育所を対象として開催いたしました。事業には市の職員である食育推進連絡会委員が従事して、食育推進連絡会全体で事業に取り組みました。</p>

来年度以降の実施についてですが、11月8日に平成26年度以降のキッズキッチンの開催について検討するため、関係課の課長が集まり打合せ会を行いました。その結果、健康増進課、子育て支援課、長寿介護課、農業振興課、農林水産課、商工観光課、学校教育課、社会教育課、中山地域事務所、双海地域事務所で連携し、今までと同じように2年間で15か所の園で実施することになりました。今年度は食育推進連絡会委員がそのままキッズキッチン担当として事業に従事していましたが、26年度以降は食育関係各課で4月の事務分担の際にキッズキッチン担当者を決めて事業を推進することになりました。食育推進連絡会や参加保護者などからは、毎年開催して全年長児にキッズキッチンを経験させたいという意見もございましたが、事業の実施には多くのスタッフが必要なため、現在の職員体制では2年に1回でないと実施が困難なため、2年間で15か所の園を対象に実施することになりました。

今年度の実施状況について説明します。平成24年度まではスタッフが調理器具一式を持って園に出向き、カセットコンロ等を使用して料理教室をしていましたが、平成25年度からは新しく完成したこの伊予市総合保健福祉センターにバスで園児を送迎して、電動の昇降式調理台のある調理実習室で子どもの身長にあわせた調理台でキッズキッチンを開催いたしました。

教室の内容ですが、当日使用する食材のうち伊予市産の食材について、実際の生産者に来ていただき、生産現場での苦労やどんな思いで作っているかを話していただきました。今年度はしいたけ、キウイフルーツ、削り節の話をするため、生産者に来ていただきました。また、商工観光課の職員が伊予市産の食材の醤油、みそ、削り節、いりこについて、大きな写真を見せながら生産の過程を説明いたしました。子どもだけで全ての調理作業を行い、大人は原則補助を行います。料理の前にはひととおりデモンストレーションを行い、作り方の説明をいたしました。保護者は料理の様子を参観し、子どもの様子を見守ります。料理が完成したところで、子どもをほめながら一緒に試食をされます。参加者及びスタッフは、資料4、2ページの表のとおりでございます。参加者数ですが、年長児が117人、保護者が109人、合計226人が今年度キッズキッチンに参加されました。また、3ページのキッズキッチン開催要綱に、26年、27年度の開催予定を載せております。

続いて、キッズキッチンのアンケート結果について説明します。資料5をご覧ください。キッズキッチンに参加後の保護者にアンケートを配布し回収しました。実施期間は平成25年10月28日～平成

26年2月5日です。アンケートの回答数は、6回開催したキッズキッチンを参観した保護者とお手伝いいただいた幼稚園役員の110人です。

子どもの家庭での料理経験ですが、今までに数回と答えた人が最も多く44%でした。料理をしたことがない子どもも4%いました。

「教室参加後、家でも料理をさせるか。」との問いに対しては、全員が「はい」という回答でした。

「教室参加後、子どもと作りたい料理について聞いたところ、キッズキッチンで作った「魚ハンバーグ・いわしのかば焼き」と答えた人が一番多く、約半数の人が答えました。次に、「みそ汁」「カレーライス」と答えた人が多かったです。

キッズキッチンの参加前に子どもさんがしていたお手伝いと、キッズキッチンに参加した後に保護者が今後させようと思ったお手伝いについてなんですが、参加前と参加後で差があった項目は、「料理」と「盛り付け」で、参加後は、「料理」と「盛り付け」をさせたいと考える保護者が多かったです。また、キッズキッチンに参加する前のお手伝いをしている子どもは「箸等を出す」子どもが110人中83人、「お皿を下げる」子どもが89人と多かったです。

キッズキッチンに子どもを参加させたいかという問いに対しては、「とてもそう思う」46%「そう思う」51%でした。伊予産食材の話聞いて地元産を買おうと思ったか。という質問に対しては、「とてもそう思う」と答えた人が38%、「そう思う」と答えた人が61%でした。

アンケートにキッズキッチンの感想を自由に書いていただきました。とてもたくさん感想があるので、主なところを抜粋いたしますと、「いわしをさばくのが思ったよりも簡単で、家でもやってみようと思いました。」「家でも一緒に料理をしてみようと思いました。」「味付けについても家ではおにぎりに当たり前のように塩を入れていましたが、入れなくてもおいしそうに食べていました。味噌汁も薄くしようと思いました。」「食材の説明も写真があり、子どもにもわかりやすかった。」「食べ物が食卓に並ぶまでの経緯のお話がとてもよかった。親子でためになる内容でした。」「薄味でもだしをしっかりとれば大変おいしかったです。」とおおむね好評な感想が多かったように思います。

アンケートの、キッズキッチンで料理指導をするボランティアの募集に対して、3名の方が名前と電話番号を記入してくださいました。現在は市の職員がキッズキッチンに従事していますが、行く行くは食育ボランティアをしていただける人にも協力してもらい、キ

ッズキッチンを実施していくことも考えています。以上でアンケート結果について説明を終わります。

次に資料 4、4 ページをご覧ください。計画改定の流れについて説明いたします。「伊予市食育 1・4 推進計画」は、平成 27 年度に最終年度を迎えます。27 年度には計画の改定に向けて、食育推進の評価指標の達成状況の評価し、今後の課題を把握するとともに、市民の健康及び食育に対する意識やニーズを把握し、次期計画策定の基礎資料を得ることを目的としたアンケート調査を実施する予定でございます。その後現行計画の評価を行い、次期の新しい計画づくりに取り組みます。そのため来年度にはどのような方法でアンケート調査を行うか、アンケートの対象や調査項目などについて協議・検討を行います。下の図は、計画改定の流れの図です。平成 26 年度に国や県などの計画「第 2 次食育推進基本計画」や「第 2 次愛媛県食育推進計画」などの他の関係計画と整合性を確保するため、評価の数値や統計の数値の確認をするとともに、アンケート調査の内容について、協議・検討を行います。平成 27 年度にはアンケートを実施し、現行計画の点検・評価、見直しを行い「伊予市食育 1・4 推進計画」を改定いたしまして、次期の計画を策定する予定でございます。

次に、資料 6 の食育推進の年次計画について説明します。平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間で計画の期間となっておりますが、その年次計画の内容です。平成 26 年度も食育推進会議と庁内の連絡会である食育推進連絡会を開催します。計画の最終年度の平成 27 年度には、計画の評価と次の食育推進計画の策定を行うように予定しています。

伊予市食育推進連絡会は市の関係課の職員で組織し、委員は、保育所や学校、社会教育、歯科、農業、漁業、グリーンツーリズム、健康増進などの市の担当者 12 名で構成されています。連絡会は、栄養健康班と地産地消班の 2 班に分かれて、食育を推進しています。

平成 26 年度に、レシピ集〜いよしの食育メロディー〜というタイトルで栄養バランスのよい伊予市の特産品を使ったレシピを市のホームページで紹介していく予定にしております。

次にキッズキッチンですが、今までと同様に、幼児期の食育を進めるため、市で、食の大切さや楽しさを学ぶための料理教室のキッズキッチンを開催します。

食育フェスタですが、健康まつりの食育フェスタで地場産品を使った伊予市の味の販売を今年度は、伊予農業高校、小西千鶴子さん、松本洋子さん、ウェルピア伊予さんの 4 団体が行い、好評でした。また、27 年度に関しましても、食育フェスタで何かしたいという方、

団体がありましたら、保健センターまで連絡をいただけたらと思います。

食育出前講座です。食育情報の提供ということで、食育出前講座、広報いよしへの食育物語の連載などを実施します。食育出前講座では、グループ・団体を対象に、講師として市の職員が出向き、食育関係の講義や調理実習を行うことにより、市民の食育に対する理解を深め、健やかな食生活を実践する力をつける等の食育の推進及び意識啓発を図っています。今年度は現在までに、3団体から出前講座の依頼がありました。グループで集まる機会に食育の講座を開きたいなど希望がありましたら、保健センターに連絡いただくと、無料で食育の講師の派遣を行っております。

広報いよしの食育物語というコラムでは、食育の啓発や知識や情報の提供についての記事を毎月載せています。原稿は、庁内の職員で構成する食育推進連絡会の委員が書いています。栄養の知識や地産地消の推進など、計画の14の推進テーマに沿った内容で掲載しています。

食育推進シールの配布というのは、佐伯矩博士、「食育いよちゃん」のキャラクターシールを食育関係団体に無料で配布し、イベント等での農産物や加工品等に貼って販売してもらっています。シールの見本はこの用紙の下に載せていますが、地域のイベントやおまつり等で食品や加工品の販売をするときに、このシールを貼って販売するよう協力をお願いしています。

食育月間と食育の日を市民に広めるため、広報いよし等で広報啓発を行っております。

保育所では「食育だより」を発行して、保護者に対して食育の啓発に力を入れています。献立表とともに、季節ごとの行事食や旬の食材についてのコラムを掲載しています。

現在も発行されている季刊情報誌パケットを来年度も引き続き発行します。お手元にパケット冬号を配布していますので、ご覧ください。パケットは伊予市の特産品やおいしいものが食べられる伊予市の店を紹介していて、最新のパケット冬の号では、伊予市のおいしいスイーツ屋さんや特産品の削り節を作っている相原海産物店などをカラフルな写真とともに掲載しています。パケットは全国の施設に自由に持ち帰れるように置いてあり、山梨県北斗市の市庁舎や北斗市の産直市、中央自動車道のパーキングエリアなどにも置いています。その他にも、伊予銀・ひめ銀の全ての支店、愛媛信用金庫、えひめ中央農協、県立図書館や松山コミセンなどいろいろな場所で配布し、伊予市をPRしています。

	<p>食育推進のリーダー育成ということで、伊予市保健センターで、毎月食育推進リーダー研修会を開催しています。食育推進リーダーは、研修で郷土料理や生活習慣病予防の料理等について学び、地域での食育及び健康づくり活動を推進しています。現在食育推進リーダーは27名いらっしゃいます。</p> <p>市内特産品のマッチング事業や試食会等を通して、市内の「食文化」に関するオピニオンリーダーの育成も26年度も引き続き行います。</p> <p>伊予農業高校、松山大学との連携事業を通して、市内産品の普及促進に取り組むほか就学年齢層の食習慣改善にも取り組んでいます。</p> <p>地域と学校給食が連携して、佐礼谷地域で栽培・収穫した野菜を港南中学校に納入する地産地消の取組を行っています。また、太陽（おひさま）市とも連携して給食の地元産使用割合を増やす取り組みも行っております。以上で今後の食育推進について説明を終わります。</p>
議長	<p>次、議題（3）各団体からの提言・お知らせ等について、お願いします。</p>
事務局	<p>資料7をご覧ください。各団体から提言やお知らせなどがございました。まず、玉井委員さんの味覚教育の推進について、今日は玉井委員さんから本も持ってきていただきました。これは、また後で見たいと思います。それでは、提言について、玉井委員さんをお願いします。</p>
委員	<p>資料7に事前に送らせていただいたものがありますのでご覧ください。</p> <p>「味覚教育」という言葉、あまり耳慣れないかなと思いますが、私も今あじの郷づくり実行委員ということで、「伊予國あじの郷づくり」をどう進めていけばいいのかなということも含めて考えていたのですけれども、この提言にはTPP（環太平洋パートナーシップ協定）から始まりまして、かなり悲観的な方向から言わせていただいたのですけれども、このTPPがもし食に関係したところで譲歩されるということになりましたら、農業にも大きなダメージがあるだろうと思いますし、我々の食の安全安心にも非常に黄色信号、あるいは赤点減がついてくる可能性が大きいと思います。このことについては、最新号の文芸春秋にも取り上げられておりまして、アメリカのモンサントという企業が遺伝子組み換えの作物を作っているのですけれども、アメリカでは、自分たちの主食である小麦はだめだという反対運動をして、それを阻止したという話も載っていましたけ</p>

れども、家畜が食べるものであればいいだろうという考え方で、そういうものが日本にも来るということで、我々世代は、逃げ切るかもしれませんが、これからの社会を担う子どもたちには、なんらかの自己防衛の武器を持ってもらいたい。「揺れたら逃げろ」と子供たちに教え、学校にいた生徒全員が助かった「釜石の奇跡」に倣い、子供たちが味覚を磨いて、おかしなものを食べないというような形で、子どもたちに生きる武器を与えてあげたい。そのためには、「味覚教育」が必要だと私なりに考えました。それで、「味覚教育」という言葉をインターネットで調べてみましたら、結構出てきまして、私も初めて知ったのですけれども、イタリア、フランスという食の先進地ではもう前から行われている。イタリアでは、「スローフード」が有名ですけれども、「スローフード」が発展して、そこから分離独立して「味覚の学校」プラート味覚教育センターで実施されていると。今日の資料の参考文例になかった、フランスの味覚教育の教科書みたいなものも手に入れてみました。そんなことで、これから私も「味覚教育」について勉強してみたいと思っているのですけれども、三國清三さんというひげ面のフランス料理のシェフで、テレビでもよく見かける方ですけれども、彼が、日本の国で先進的な取り組みをされていると本にも載っていますので、調べてみたのですけれども、味覚というのは5つあり、5つ目、最後に「旨み」というのがあるのですけれども、我が伊予市の削り節産業を含め、伊予市で特に応援したいような分野の取り組みなものですから、それも含めた「味覚教育」ということで、その味を感じ取る味蕾（みらい）が12歳のときに、一番たくさんあるのだそうです。それを過ぎると、衰えていくということです。ですから「キッズキッチン」が幼稚園・保育園の年代であるとすれば、「味覚教育」は小学校3年生から6年生くらいで取り組んでいったらいいのではないかなと。否定的な側面から言いましたけれども、「あじの郷いよし」を作るためには、味覚の優れた子どもをたくさん養成して、ここから、三国シェフのような料理界で名を馳せるような方をどんどん出していけるような取り組みをいち早く伊予市でやれたらいいのではないかなと思うわけです。最後に、「味覚教育条例」を書かせていただきましたが、この条例、ネットで調べましたが、まだないようであります。ですから、いち早く伊予市で味覚教育に取り組んで、味覚教育はこうやるのだというような基準を定めた条例のようなものを作っていただいて、それをキッズキッチンと平行して進めていただいたらいいのではないかなという風に考えております。どうか、皆さんも、「味覚教育」について考えていただいたらと思います。以上です。

事務局	次に資料7の2枚目になりますが、お願いします。
委員	<p>県のふるさとづくり推進大会での基調講演に竹下先生をお呼びして講演をしていただきました。現在、竹下先生は小学校を定年退職されて、講演会活動に忙しくされているのですが、校長時代に、月に1度お弁当の日を作って、6年生が買い物から料理まで自分でして、そのお弁当を、全校生徒を前にして食べるのですね。低学年が高学年になったらお弁当を自分で作って食べられるのだと思う段階が非常に素晴らしいことだとおっしゃったのと、今伊予市ではキッズキッチンをしていますけれども、キッズキッチンだったら調理器具の用意をしたり、多くのスタッフが必要であったり、とても大変ですけれども、家でお弁当を作って、親の元で管理してそれを持ってきて食べるということで、スタッフとか、支援をするということが少なく、とてもいいことだと思ったので、この食育推進活動にもぜひ学校でのお弁当の日というのを作っていただけたらというのを提案したいと思いました。以上です。</p>
事務局	次に、各団体からのお知らせで、松山地域センター森委員さんより「食品トレーサビリティに取り組みましょう」というパンフレットのご紹介をさせていただきます。今パンフレットをお配りいたしますので、お待ちください。
委員	<p>失礼します。食育とはちょっと離れてはいるのですが、その前に、今、委員さんからご提案がありました中に、和食が世界文化遺産に登録されたということで、農林水産省では、そのパンフレットを今作っております、6月の食育月間のときには、イベントとか太陽（おひさま）市の前のカート置き場に、パンフレットを置くところなど、色々なところに置きたいと思っておりますので、またよろしく願いいたします。</p> <p>今日は「食品トレーサビリティに取り組みましょう」というパンフレットをお持ちしました。1 ページ目の「1. 食品トレーサビリティについて」というところをご覧ください。食品トレーサビリティとはどういうものかといいましたら、一番よく知られているのが、牛肉の番号です。牛肉を買われたら、10桁の番号がついておりまして、あの番号は、牛が生まれたときに耳につけて、それが家畜されて肉になって最後まで、人間でいいますと、戸籍みたいなものですけれども、その番号が全部最後までいくということで、食品事故のようなものがあつたとき、その食品の移動ルートを特定するための仕組みです。そういう仕組みを色々な食品に考えております。今現在、牛肉と米などをやっておりますが、そのような取り組みを今やっているというご紹介でありますので、今日は参考に持ってま</p>

	<p>いりました。よろしくお願ひいたします。</p>
事務局	<p>次に、伊予歯科医師会委員さんより、お口の機能を育てましょうというパンフレットについてご紹介させていただきます。</p>
委員	<p>事前に40部くらいパンフレットを持ってくればよかったですけれども、パンフレットを見つけたのがそんなに間もない時期でございましたので、今日はお配りすることができないことを、申し訳なく思っております。歯科医師として食育に関わるということで、日本全国でどういうことを歯医者がやっているのかなということを調べましたところ、石川県の保険医協会がなかなか面白いことをしておりましたので、そのご紹介をしたいと思います。</p> <p>その一つが、石川県がお口の機能を育てましょうというパンフレットを作ったのですが、20ページほどのパンフレットなのですが、どういう内容かと申しますと、今、味覚教育の話がでましたが、五感の中で味覚ももちろん大事ですけれども、食育に係るのは、色・透明感・形など視覚、甘いにおい、おいしそうなおいなどの嗅覚、触った状態、これ、熟しているなどか、硬いなどかの触覚、おせんべいを食べてポリポリとかバリバリとか音がします。聴覚ですね。そういう音も、食事の楽しみですよ。このパンフレットから、そのように、歯科医が五感を育てることができるということを知り、びっくりしたのです。いうなれば、食育をする前段階で、人間のベースをきちんと作ってやれば、食育なんてちょろいものだという考えなのですね。そういうお口の機能を育てていけば、食育もおのずとできますよ。もちろん私たちは哺乳類ですから、母親のおっぱいから育ちます。やがて、小さな乳歯が生えてきて、離乳食を食べるようになる。それからぼつぼつ歯が生えてきて、乳歯の歯列が完成したら、今度は幼児食になる。そして、12歳になって、大人の歯が全部生えそろう。これにもちゃんと理由がありまして、12歳はまだ成人ではないですから、体はまだ小さいです。ですが、口の中、歯だけは大人になる。その大人の歯でしっかりと栄養を取って、もっと体よ、大きくなりなさいと。その中で、噛み方とかもぐもぐごっくんの仕方をどんどん学習していくと。これは、本能ではないのです。学習です。ですからこの学習の仕方がまずかったら、いわゆる間違った食べ方になったり、間違った食事になったりしていく。子どものころに身についた食習慣は、成人期に影響を与えるわけです。ですから、子どもたちに食を通じてより豊かな人生を送ってほしいというそういう願ひからこのパンフレットは作られたようです。一つ面白いのが、手づかみ食べを大いにさせましょうと。手づかみで食べることはお行儀が悪いと思われがちです</p>

	<p>けれども、それは、食べ物を目で見て、指でつかんで、口に運ぶという目と手と口の共同運動の発達のために、重要な役割を担っている。手づかみ食べをすることで手や腕、口などの連携機能が発達し、食器や食具を利用する次のステップがスムーズになる。ですから、大いに手づかみ食べをさせてくださいということが書かれてあります。本当は皆さんにお見せしたいのですが、今日は時間がありませんので。ぜひ私の担当としては、マザー教室などで、こうやって育てましょうというような、このパンフレットに基づいたような知識を、ママになられる人たちに教えてあげたいと思っております。以上です。</p>
事務局	<p>次に、愛媛県立伊予農業高等学校の食育に関する取り組みをまとめたものが届きましたので、皆様にお配りしています。お目通しください。</p> <p>以上で、各団体からの提言、お知らせなどを終わります。</p>
議長	<p>議題(4)意見交換をしたいと思います。どなたか今までの発表で、またその他、ご意見のある方、どうぞ。</p>
委員	<p>資料3の地産池消の推進についての、出荷実績基礎調査について、調査対象に、中山町の特産センターも、何千万円という出荷実績があるので、もしよかったら調査対象にしてはどうでしょうか。</p>
事務局	<p>JR 中山駅にある特産センターですか。分かりました。そちらのほうも調査対象とさせていただきたいと思います。情報ありがとうございます。</p>
委員	<p>行政の取り組みの中で、かなり色々な事業をされているなあというのが分かったのですけれども、ただ、まだ行政の縦割りの部分が残っているのだなあと思うこともありました。一例として、長寿介護課がやっておられる「目玉焼きクラブ」と社会教育課の「メンズクッキング教室」です。確かに、参画される場所が違うということはあるのですが、年齢とかよりも、もう少し尾を広げて事業をされてもいいのではないかと。長寿介護課だから高齢者と枠組みを決めてその中でというのではなくて、年齢的なことではなく、男女の区別も含めて、もう少し緩やかできないのかなあと思いました。そして、これをもう少しコミュニティ作りの方へ広げて、さっき補助金をつけて自立していただくという話がありましたけれども、そんな方向で自主的な活動の方へ進化させて、行政から自立していただくということも取り組みとしてやっていただけるといいのかなと思いました。</p>
委員	<p>今、目玉焼きクラブについてのご提言をいただきました。この事業、おおむね65歳以上の男性でということですが、この事業</p>

	<p>が始まったきっかけですけれども、介護保険の中で、現在介護保険のサービスは必要ではないけれども、その1歩あるいは2歩手前におられる方がどういうふうに身体状況等を維持していくかという取り組みがございします。その中で、高齢者の栄養についての取り組みという形で、女性の方は長い間料理をされてきておりますので特に取り組みは必要ないのだけれども、男性の方は経験も少ないですし、奥様が亡くなられて初めて「さあ、明日からどうしましょうか。」となるということで、取り組んでおる事業なのですけれども、これ、委託と申しあげましたが、委託につきましても、もともと介護保険がありまして、目的がある関係で、高齢者に対象を絞った事業となっております。けれども、社会教育課の方でメンズクッキング教室等もありますので、そういったものも参考にしながら、玉井委員さんのご提案にもありましたように、クラブそのものの独立を図っていくということも大事なことだと思っております。ありがとうございました。</p>
<p>委員</p>	<p>社会教育課からです。長寿介護課の方は目的が明確になっております。委員さんが言われた状況ですと、どちらかという社会教育課に近いのかなという気がいたしますが、このメンズクッキング教室、教室という名前についてはついておりますが、実質はサークル活動になっております。好きな人が集まって自主運営という形で活動しておりますので、特別これについては、成人の男性という以外の縛りはなく、こられたい方は、活動しているときに見学に来ていただいております。お話をきいていただくというところからスタートしていただくという形になっております。</p>
<p>議長</p>	<p>どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>あの、お答えいただきありがとうございました。特にこの高齢者という概念が、65歳以上となっておりますけれども、今後伊予市でも提言していこうと思っておりますが、老人センターという言葉、建物があるわけなのですけれども、今後これをどうするかということが、たぶん新庁舎云々の中でまだもれているので、将来言われるようになると思うのですけれども、この、老人という言葉が、段々嫌がられる。特に他の地域の事例であります、老人センター名がつくので利用度が非常に低い。ところが名前を変えたら利用度が上がった。年齢差別的な部分を考慮していかないと、今や、やれビートルズだとかユーミンだとかいっているような時代の方が65歳の中に入ってくると、高齢者という形で、括弧でくくられることを物凄く嫌がってくる。市民がそういった時代に入ってくるので、そういうことも加味されて、少し年齢の幅を広げるとか、名称についても新</p>

	<p>しい名称も含めて、老人という名前をつけないような形で行政施策をやっていかないと、市民の方にそっぽを向かれる可能性もあるのではないかという思いもありますので、付け加えさせていただきます。</p>
委員	<p>長寿介護課です。今ご指摘がありました一点目につきまして、老人という名前をつけた施設についてですが、老人福祉センターがございしますが、こちらの方については、近く建て替え等検討しております。その内容、また名称につきましても、その中で検討を深めていきたいと思っております。それから、老人憩いの家というのが中山地域と双海地域にございます。そちらの方は現在のところ建て替えなどの検討はしておりませんが、名称等変更ができるのであれば、検討してみたいと思っております。</p>
議長	<p>他、どなたか。ちょっとわたくしからいいですか。</p> <p>昨年10月に第4回の食育推進会議の時に、給食のお米が全部伊予市産でまかなえるようになったという発表がございましたよね。概ね100%伊予市でまかなえると。実はですね、今日愛媛新聞を見ましたら、愛媛県の県産米が日本穀物検定協会の米の食味ランキングで、特A、A、A⁺、B、B⁺の5段階ありまして、愛媛県で、Aにランク付けされた米が「コシヒカリ」「ヒノヒカリ」そして、昨年県の奨励品種になった「にこまる」だそうです。そこで、ちょっとお尋ねしたいのですが、伊予市の米は何か、品種が特定されているのでしょうか。どこに聞いたらいいいのかな。</p>
委員	<p>伊予産米で納品してもらおうように、学校給食としてはしております。品名についての特定までは今はしておりません。ただ、統一して伊予市産米が入っているのは確かです。</p>
議長	<p>特Aというのは、香川の「おいでまい」それから新潟魚沼の「コシヒカリ」が、もう連続して特Aだそうです。形と香りと味で評価しているそうです。できれば、おいしいお米を食べさせてあげたいかなと思いました。</p> <p>他どなたか、どうぞ。</p>
委員	<p>資料1の、健康増進課の新規事業の妊婦歯科健康診査ですか、この具体的な中身について、お聞かせいただけたらと思うのですが。どういう範囲といいますか、どういう歯科で健康診査が受けられるようになるのか、また、受診券を渡したりするのか、お金を払うのかなどですね。それから、保健指導についてもやっぱりそこで個別に受けるようになるのかなど。</p> <p>それから、商工観光課の山梨県北杜市との関係、遠隔地連携給食の支援についてですが、どういう経緯で北杜市とつながりができた</p>

	<p>のか、ということと、後は、北杜市といいますと、山梨県ですから当然山の中ですけれども、遠隔地連携というのであればやはり、海産物関係でなにか、連携できるようなことがあればもっといいのではないかと思ったりするのですが、現実、そういう可能性が今後ありそうなのかどうかというところを少し聞きたいです。</p>
事務局	<p>失礼します。1点目の妊婦歯科検診につきましては、予算が計上させていただいてからということで、まだ具体的なお話ができる状態ではありません。また、改めて紹介させていただけたらと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p>
委員	<p>続きまして、北杜市との関係でございますが、あじの郷づくりの事業を展開する中で、コンサルの方に入っていて、色々ご指導をいただいたわけなのですが、このコンサルの方が北杜市のコンサルも行ってたということで、コンサルタントのつながりで連携ができたのが始まりと承っております。</p> <p>そして、学校給食関係ということなのですが、双海でとれておりますカタクチイワシを天ぷらにしまして、そういったものを、北杜市が山の市でございますので、そういった魚をあちらの方へ送って、それを学校給食で利用されているということ、前担当者から聞いております。それくらいのことで、よろしいでしょうか。</p>
委員	<p>遠隔地の海産物で、連携の可能性がありそうなことはないかということ、聞いたかった、北杜市は山間部なので。ないのだったらないで、それはかまいません。</p>
委員	<p>ちょっといいですか、今の、補足を。あじの郷づくりで、当初から関わっておりますので。北杜市の連携というのは、キッズキッチンを含めて、福井県の小浜市から学ぼうではないかということで、市の幹部も含めて小浜市に出向いたり、小浜市からキッズキッチンについて詳しい担当者に伊予市に来て講演をしていただいたりそういう関係があるのですけれども、たまたま偶然北杜市の方が小浜市と連携してやっていきたいということで、小浜市の方へ出張されていて、その職員さんをきっかけに、北杜市から伊予市にも来ていただきまして、いろいろ意見交換をして、できれば食の連携をしたいということで。その後、北杜市の産直市に伊予市の食品を送ったら、すごく評判がよくて、市も何も関係なしに、生産者と直接取引ができるようになりまして、かなり流通するようになったと。ところが片道切符で、北杜市の方に、伊予市がほしいものがなかったものから、ちょっとその点で残念なことになっています。</p>
委員	<p>ただいまのお言葉ですが、ご提言なのかと思います。先ほど申されましたように、今後、多方面における食の交流が大切だということ</p>

	<p>とをご提言いただいたと思うわけです。今後、いろんな情報等を入力しながら、連携等を進めていきたい。特に現在、関西方面で観光物産フェアを実施し、伊予市の物産、観光のピーアールを行っているところではあります。特定の団体、市町村との連携がまだできていませんので、ここ北杜市のみならず、対応ができれば進めていきたいと考えております。</p>
議長	<p>他、どなたか。ありますか。</p>
委員	<p>学校給食におけるお弁当の日の実施についてのご提言ですが、学校教育課長がお答えにならないので、私の感想を。確かに、月に1回のお弁当というのは理想ですけれども、かなりお母様方、ご家庭の保護者の方の負担がかかるのではないかと考えております。例えば、学校に、ここの保健センターのようにチャイルドキッチンとかを実施できる子供用の調理室があって、なおかつ午前中の授業で子どもたちが買い出しに行って、授業の一環でお弁当を作るということでしたらできるかもしれませんが、月に1回保護者の方に無理を言ってお弁当というのは、かなり負担ではないかという気がします。そこで、遠足は今でもあるのでしょうか。お弁当の日。その、年に1回でも遠足のときは、お弁当を作るときに保護者の方のお手伝いをして、自分たちもかかわったお弁当を作ってきて、遠足に持ってきたという位置づけをすれば、せめて、いいのではないかなと考えております。以上です。</p>
議長	<p>どなたか、あと、ございませんでしょうか。今日はですね、行政の方々、食育の取り組みの発表ありがとうございました。わたくしも、味覚の教育ということで、子どもときの食育というのが非常に大切だと思っております。最近外食産業、マクドナルド、ロッテリア、モスバーガーなどいろいろありますよね。フィレオフィッシュというのがありますが、外国の深海魚、名もない魚であります。昔聞いた、マクドナルドの社長の「小さい子どもにそれらを食べさせていると、鮭がふるさとの川に帰ってくるように、大人になったらまた食べてくれるだろう。」という言葉が印象に残っております。本当に怖いことです。子どもとき、12歳くらいまでにやはり味覚をしっかりと発達させるということ。そして、わたしたちもおふくろの味というのはやはり懐かしいし、何か、違いますよね。子どもときの味食べた味は忘れない。ですから、子どもときの食、とても大切にしたいと思っております。</p> <p>今日は色々、ご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>会長さんにおかれましては、長時間にわたる議事進行、大変お世話になりました。最後にその他の項目ですけれども、何かあります</p>

でしょうか。

事務局の方から、お願いしたいと思います。今回の委員の皆様の委嘱期間が今年度末、3月末を持ちまして委嘱が切れるということで、先ほど担当の方からも説明がありましたように、伊予市食育1.4推進計画が平成28年度に最終年度を迎えるということで、平成26年度には、どのような方法でアンケート調査を行うか、アンケートの対象や調査項目などについて、協議や検討というような重要な案件もありますので、再任を含めまして、ぜひお願いしたいと思っております。

何かございませんでしょうか。それでは、このあたりで会を閉じさせていただきます。皆様に置かれましては、熱心な意見交換等ありがとうございました。皆様からいただきましたご意見を念頭におきまして、今後の食育の推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第5回伊予市食育推進会議を閉会いたします。委員の皆様本日は長時間に渡りありがとうございました。お疲れ様でした。